



# 林業とくしま

「木づかい」は誰でもできるエコ活動  
みんなで防ごう地球温暖化!

## 第1回 徳島県森林CO<sub>2</sub>吸収量証明書交付式



第1回 徳島県森林CO<sub>2</sub>吸収量証明書交付式 (H22.3.30)

### もくじ (林業とくしま293号)

◇私の森づくり..... 2	◇特集..... 8
・吉野川市 和泉 時正 さん	・平成22年度 林業普及指導事業について
◇がんばる若手リーダー..... 3	・各種中央団体の表彰
・海部郡美波町 外磯 千暁 さん	◇森林林業技術情報..... 10
◇現地だより..... 4	・森林林業研究所の業務概要について
・東部圏区域 (徳島)	・平成22年度 林業技術研修について
・東部圏区域 (吉野川)	◇県産材の需要拡大に向けて!..... 12
・西部圏区域 (美馬)	・「オール県産材の生活体験施設が各地
◇林政の窓..... 6	に誕生」
・平成22年度 森林・林業に関する主要	◇県林業改良普及協会だより..... 13
事業の概要	◇県林業研究グループ連絡協議会だより...14
	◇阿波だぬき.....15
	◇広 告.....16



No. 293

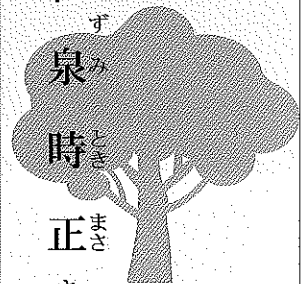
2010・6

# 「私の森づくり」

## 山は先祖から子孫に引き継ぐもの

吉野川市

和泉時正さん

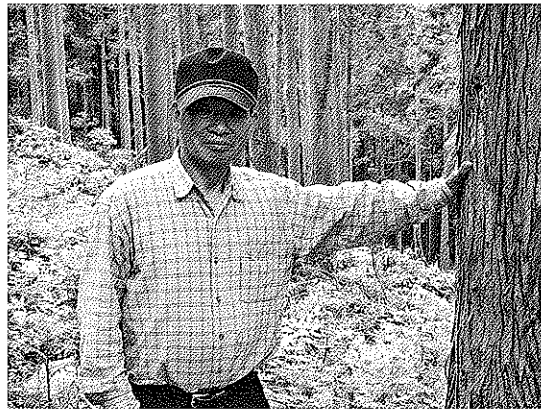


ら子孫に引き継ぐもの『なのでこれからも愛情を持って森づくりをしていきたい』と語っていました。和泉さんの今後益々のご活躍を心から期待いたします。

東部農林水産局(吉野川)

林務担当

課長補佐 田中 剛



和泉時正さん

今回は、吉野川市美郷村で農林業を經營されている和泉時正さん(七十三歳)をご紹介します。

和泉さんは、昭和二十年代より家業であった農林業を引き継ぎ、奥様のミチコさんとともに、ミヨウガや菜の花などの農産物の生産に励みながら森づくりに熱心に取り組んでい

ます。

氏の、所有森林は約一一ヘクタールで、そのほとんどが自宅から車で五分程の国道一九三号線沿いにまとまっており、森林經營をするうえで非常に恵まれた立地条件となっております。また、林分構成は、全て人工林でスギが一〇ヘクタール、ヒノキが一ヘクタールで、林齢は十年生から八十年生で、うち約半分が五十年生前後であることから、現在は、保育間伐から搬出間伐を中心とした施業となっております。

搬出間伐については、昭和五十年代前半から取り組んでおり、昭和五十三年に二トトラックを、さらに平成九年には四トトラック(ともにユニック付き)を購入して、奥様と二人で搬出間伐を行っています。昭和五十年代は「ナル材、ハデ材」の需

要があつたことから十分採算が取れたそうです。また、平成に入つてからは、旧美郷村が実施していた搬出間伐助成制度(三、〇〇〇円/㎡)を有効に活用し搬出間伐を実践しています。

氏の經營方針は、長伐期大径木生産を目指しており、所有森林を拝見させていただくと、五十年生前後の森林は全て六百本/ヘクタール前後に整備され、下層植生も旺盛で、氏と奥様の二人の愛情が感じられる森林になっていました。

氏に今後の方針を聞いてみると、「今は、木材価格も安く林業經營は非常に厳しいが『山は先祖か



愛情込めて育てた森林



# がんばる若手リーダー

日和佐森林組合 **とのいそちあき** 外 儀 千 暁 さん

外儀千暁（とのいそちあき）氏は、現在、日和佐森林組合で高性能林業機械のオペレーターとして木材の伐採、搬出や作業道の開設などに従事する若手リーダーです。

現在の仕事に就いたのは平成16年からですが、以前は県内で違う仕事をしていたそうです。生まれ育った海部郡で定住を決めたことをきっかけに森林組合の作業班員として働き始めましたが、最初は“求人が出ていたため軽い気持ち”で応募したそうです。

今年34才になる外儀さんですが、現場では班長としてがんばっています。

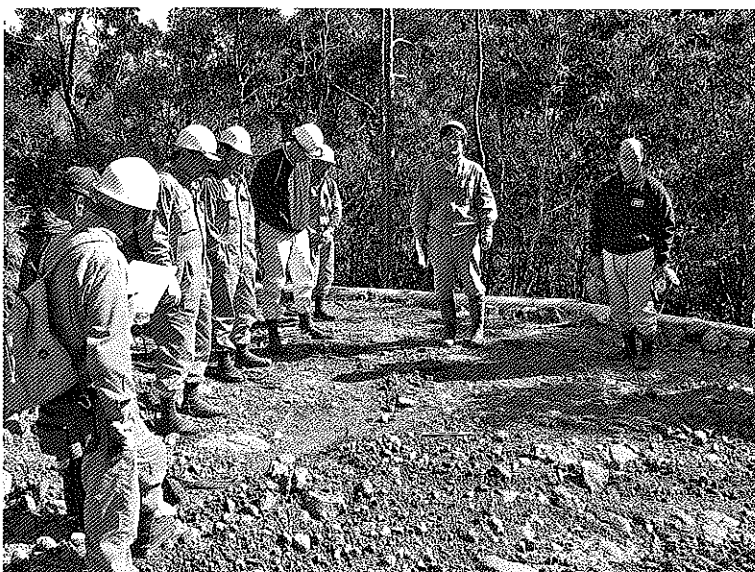
現在、班員は主に作業道を開設していた班と、搬出を担当していた班が合体しているため5人と多めで、そのうち3人が60才代、2人が40才代と、外儀さんより年齢は上の方ばかり。一番年下の班長さんです。そのことについてお話を聞くと、やはり組合との仕事の打合せ、班員の仕事の配分など以前には無かった仕事が増え、現場での仕事が終わった後も奔走しているようです。



外 儀 千 暁 さん

6月8日(火)、雨で仕事が休みだったため、ゆっくりとお話を聞くことができました。現場で見る緊張感を持った姿とは対照的に、子供連れで現れた外儀さんはリラックスした表情でしたが、今後の仕事につ

いてお話を聞くと、“班の仕事の確保”や“現場の案を組合に伝えたい”など班長としての顔になっていました。また、「山は嫌いじゃないし、現場では悩みもあるけれどその方が面白い」と、軽い気持ちで始めたこの仕事に“ハマってきている”のが感じられました。これからも様々な知識や技術を受け継ぎ、ますますご活躍されることを期待しています。



作業道研修への参加（右から5人目）

南部総合県民局農林水産部（美波）  
林務担当 係長 大津 浩史

## 現地だより

# 林業普及現場からの情報コーナー

【東部圏区域（徳島指導区）】  
棚田の景観保全を考えた  
バイオマス利用法

上勝町には、数多くの棚田が存在しており、特に「檜原の棚田」は、農林水産大臣より「日本の棚田百選」に認定され、その里山の美しい風景は、地域住民に憩いの場を提供するとともに、自然環境の保全の重要性を認識させるものです。

町では、集落の景観を保全するために、まず補助事業（修景等環境保全事業）を利用して「木もれ陽の路クリーンアップ作戦」と銘打って、交通アクセスを改良し、道から張り出している枝や葉などの伐採・枝打ちを実施しています。

これらは未利用バイオマス資源としてチップ化し、地元の月ヶ谷温泉のボイラーの熱源に有効利用することが出来ます。

月ヶ谷温泉では、化石燃料（重油）

と木質チップを併用していますが、更なるコスト削減のため、木質チップの利用割合を高めることが近々の課題です。

そのためには、材料のチップを安定的に増加させる必要があり、先程の町道沿線の修景保全事業のほか、地元森林所有者が低質材を搬出した際、(株)もくさんが1kgあたり5円引き取ってくれる制度



修景等環境保全事業実施状況



美しい檜原の棚田

を利用しています。

この制度を利用することで、森林所有者が少々でも収益が見込め、山が少しでも元気になってくれることを期待しています。

また、平成二十二年度からは、新たにシイタケの廃菌床や竹チップなどを利用したバイオマス資源化を計画しており、実際に熱源として利用できるかどうか実証試験を行うこととしています。

これらの取組は、町が宣言した「ゼロ・ウェイスト」に沿ったものであり、今回はその取組の一端を紹介したものです。

県も、このような取組の結果をふまえ、環境と経済を両輪とし、循環型社会を目指して行けるよう普及していきたいと考えています。

東部農林水産局（徳島） 林業振興担当  
主査兼係長 笹山鉄也

【東部圏区域（吉野川指導区）】  
「すてきな木の家の会」主催の  
木造住宅見学会開催される。

去る四月十一日（日）「すてきな木の家の会」主催による木造住宅見学会が開催されました。

「すてきな木の家の会」は、平成十五

年度に当

時の川島指導区が中心となり組織した「吉野川住宅検討委員

会」のメンバーのうち阿波市に在住する消費者を中心として結成された市民グループで、



地域材でリホームした住宅



「すてきな木の家」見学会

林業を応援することを当会の目的としています。また、活動内容は単純明快で、会員一人当たり年間五人の阿波市民に対し「木の家はすてきよ」と伝えることを活動としているグループです。今回は、言葉だけでは無く、その「すてきな家」を多くの市民に肌で感じてもらうため開催されました。

見学会には、スタッフ五名を含む三十名が参加し、阿波市内で既に地域材を使用した木造住宅に住んでいる市民

の協力をいただきながら三棟の木造住宅の見学をさせてもらいました。見学した住宅は、新築一棟、リホーム二棟で、三棟とも徳島スギをふんだんに使用するとともに、施工単価も家具を工務店で製作する等の低コスト化により二一〜三四万円／坪程度に抑えられた住宅であり、参加者は、「すてきな木の家」を肌で感じながら、施工単価もお手頃価格であることを認識したよう、案内した設計士さんと本格的に打ち合わせをする場面も見られるなど、非常に有意義な見学会となりました。

吉野川指導区では、現在、活性化センターを中心に「地域材需要拡大のためのマスタープラン」を策定中で、同プランにおいてもこのような市民レベルでのPR組織は必要不可欠な存在として位置づけられる予定であり、今後もう少しした活動を可能な限り支援していきたいと考えています。

東部農林水産局（吉野川）  
林務担当 課長補佐 田中 剛

## 【西部圏域区（美馬指導区）】 林業労働安全対策の取り組み

皆様もご承知のとおり、平成二十二年に入つて、今日（五月末）までに、

林業現場での死亡事故が既に二件発生しています。

高性能林業機械の導入等により、危険作業は減少しているものの、伐採や玉掛けなど、人が直接木に触れなければならぬ現場は必ずあり、こうした場所で事故が発生しています。

さらに、手入れが行き届いていない森林は未だ数多く残っており、今後も間伐等の森林整備が必要であることや、林業が雇用の受け皿となっていることから、新たな林業従事者の増加も予想されます。

このような林業の現状を踏まえ、西部圏域で取り組んだ労働安全対策について紹介していきます。

まず、西部圏域では、県、労働基準監督署、林災防及び森林組合等関係団体と「西部総合県民局林業労働安全衛生推進協議会」を平成十八年十一月に設立し、毎年、安全パトロールや林業従事者への研修会を実施し、労働災害の防止に努めています。

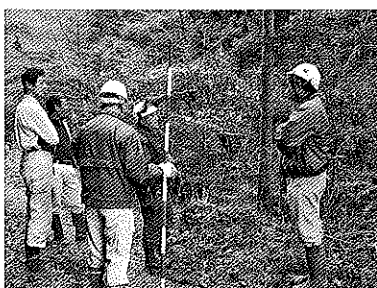
今年度も去る六月二日に協議会を開催し、「安全パトロールの強化」や「災害発生時の対応研修の実施」等の活動計画を協議したところです。また、当協議会において、各事業体の労働災害防止に向けた取り組み事例が紹介され

ましたので、皆様にその中からいくつかお示しします。

①現場帰着時のワン切り：現場帰着時に組合職員へ電話を掛けることにより、携帯電話の電波確認と作業班員の安全確認を行う。

②地図で作業現場を管理：職員誰もが、作業班員がどこにいるのかわかるように、管内図に磁石で現場位置を示す。

以上のような、ユニークで実践的な取り組みがありま



事故現場での現地指導



榑ウッドピアでの安全講習会

認し、事故の原因や対策について、職員や現場責任者を交え検討会を行ってきました。このほか、毎月二十日の作業班員会議にも何度も出席し、県内の他の事故例を参考にすることで、繰り返し労働事故防止を伝えてきました。なかでも、株式会社ウッドピアに対して行った労働安全講習会では、間伐事業の増大から臨時作業員が増加していることや、これまで臨時作業員に安全講習会を開いた実績がなかったことから、臨時作業員を含めた全職員を対象に講習会を実施しました。

さて、今後については、美馬指導区内では二社の建設業者（登録林業事業体）が素材生産を行う予定になっています。こうした新たな参入者に対して、研修会等を通じながら、労働安全の指導徹底を行い、労働事故ゼロを目指していきたいと考えています。

また、月並みではありますが、事故防止を目指すには継続した労働安全指導と、その指導が末端（現場）まで行き渡ることが重要であると考え、管理者及び現場での指導徹底を図っていきたいと思います。

西部総合県民局農林水産部（美馬）  
林業振興担当 主任 加藤 正典

## 平成22年度 森林・林業に関する主要事業の概要

林業振興課 森林企画担当 課長補佐 金井仁志

### 1 平成22年度当初予算の概要

地方の厳しい財政状況が続く中、財源に工夫を凝らすことで、平成22年度の県当初予算総額は、昨年度から86億73百万円増加（2%増）の4,509億31百万円となっています。

一方、農林水産部の予算は308億18百万円と2%の減となっていますが、林業については、待ったなしの課題である「森林吸収源対策の推進」や、経済危機の克服に向けた経済・雇用対策として「林業飛躍プロジェクトの強化」に取り組むために、大幅な増額を図ったところです。この結果、林業関係の予算は、農林水産部予算の42%（昨年度34%）を占める128億12百万円（20%増）となっています。

#### (1) 施策の重点事項

県政の運営指針である「オンリーワン徳島行動計画（第二幕）」に盛り込まれた「林業飛躍プロジェクトの推進」と「未来を守るとくしま森林づくり」をはじめ、平成20年から第一約束期間が始まった京都議定書に基づく「森林吸収源対策」を着実に展開します。

また、これら重点施策の取組みをさらに加速化させるため、「森林整備加速化・林業飛躍基金」を活用し、森林整備から木材利用までを総合的・一体的に推進します。

#### (2) 主要新規・拡充事業

##### ① 森林整備加速化・林業飛躍事業

昨年度の5月補正予算により造成した「林業飛躍基金」を活用し、間伐などの森林整備から、路網・林業機械・木材加工施設・木造公共施設などの整備までを、一体的に推進します。

予算額 1,516,361千円

##### ② ゆとり・あんしん「徳島すぎの家」モデル事業

木造住宅の普及により県産材の需要拡大を図るため、県内の工務店等を対象に、徳島すぎを使った長期優良木造住宅の仕様・設計を広く募集し、優れた提案に対し徳島すぎ製材品を提供します。

予算額 4,500千円

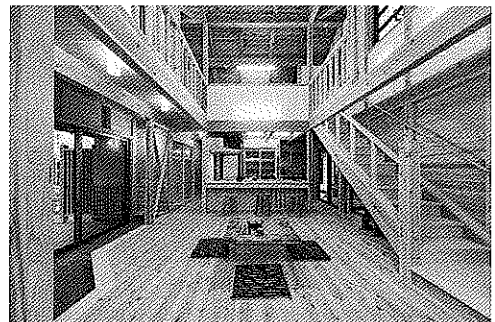
##### ③ 徳島すぎの家づくり広域ネットワーク化促進事業

林業者、設計士、工務店等のネットワークを県内のみならず広域に広げることで、高速道路等の物流コストの変化や多様な消費者ニーズに対応した県産材住宅の供給体制づくりを推進します。

予算額 11,000千円

##### ④ 丸ごと「なっ！とくしま」生しいたけ生産強化実証事業

日本一の生産量を誇る県産生しいたけの生産体制を一層



徳島すぎの家



園床しいたけ栽培

強化するため、菌床の原材料を全て県産化するための実証事業を実施し、ブランド力の向上を図ります。

予算額 2,500千円

⑤ 「林業するなら徳島で！」応援事業

県内外から林業への円滑な就業を実現するため、林業情報の提供や就業説明会の開催と合わせて、林業資格取得研修を実施し、新規林業就業者の増加と定着を促進します。

予算額 4,000千円

(3) 公共事業

昨年末、国における予算編成に際しては、「コンクリートから人へ」の方針に基づき、「事業仕分け」や「予算の組み替え」などが行われました。この結果、今年度の「農林水産省」の公共事業予算は対前年度比34%もの大幅な減となり、うち林野公共事業についても28%減とされたところです。

しかし、徳島県については、県土の75%を占める森林の重要性と、中山間地域の経済・雇用分野に与える影響を考慮し、「林業飛躍基金」や「森林整備担い手対策基金」の活用など財源に創意工夫を凝らすことで、間伐や作業道整備を中心に「県単公共事業費」を大幅に増やしました。この結果、林業関係の公共事業は、対前年度比10%増の予算を確保しております。

林業関係の公共事業予算

全 体		84億14百万円 ( 10%増)
内 訳	国補助事業	62億83百万円 ( 2%減)
	国直轄事業	2億12百万円 ( 34%減)
	県単独事業	11億35百万円 (573%増)
	災害復旧事業	7億84百万円 ( 3%増)

2 おわりに

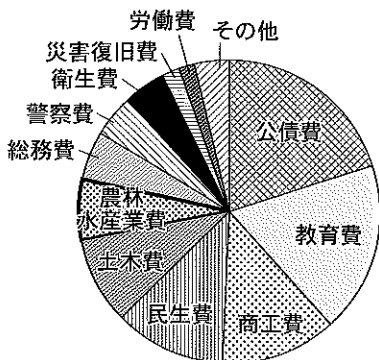
国の三位一体改革により、平成16年度から国の補助金や地方交付税などのカットが続き、県予算も右肩下がり続きの状況が続いていました。

しかし、今年度の林業予算は、雇用対策をはじめとする経済面と、地球温暖化対策などの環境面、この両者に配慮した結果、大幅な増加となっており、本県林業の発展にとって絶好のチャンスになると期待しているところです。

さらに今年度は、「林業飛躍プロジェクト」の最終年にあたります。総仕上げの年にふさわしいこの予算を有効に活用することで、「林業の飛躍」を確固たるものにしたいと考えております。皆様方の御理解と御協力をお願いいたします。

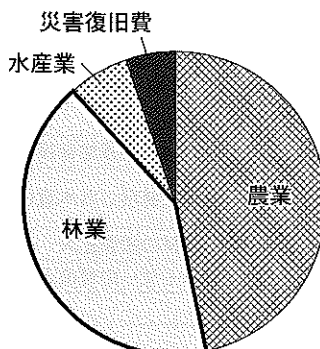
(グラフ1) 県予算

(単位：千円、%)



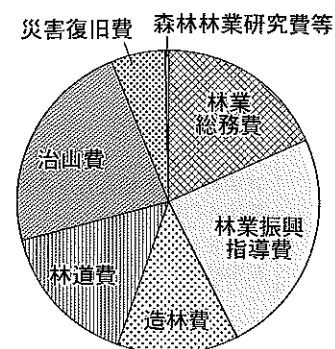
(グラフ2) 農林水産部予算

(単位：千円、%)



(グラフ3) 林業関係予算

(単位：千円、%)



林業普及指導事業は、広域区（森林林業研究所）、東部（東部農林水産局）、南部（南部総合県民局）、西部（西部総合県民局）に配置された合計27名の林業普及指導員が、専門的な技術や知識の普及、及び調査やコーディネート活動等により、重点化された課題の解決に取り組んでいます。

平成22年度は、表のように18の重点課題が設定されており、それぞれの指導区において、活発な活動が展開される計画です。

平成22年度 林業普及重点課題一覧表

指導区	重点課題	普及事項
広域区 (森林研)	森林管理手法の近代化支援	「システム収穫表」の普及と団地化推進に関する支援
		不在村森林所有者等への森林経営・管理手法の支援
		林業技術情報の提供と技術支援
	林業技術者の養成および作業技術の向上支援	各種林業技術研修の実施
		計画的な技術者育成システムの構築
		作業技術の高度化に関する支援
	木材流通情報の提供と森林・木材の有効利用の指導	木材流通における現状把握と分析
		木材乾燥技術の普及
		間伐空間を活用した山菜等の生産技術実証支援 里山の広葉樹生産体制強化支援
東部 (徳島)	搬出間伐の効率化	実行性の高い事業計画の作成及び事業実施の支援
		見積設計の実施と結果分析（施業提案能力の向上）
		新間伐システムの効率的な実施のための技術指導
	バイオマス燃料等への地域材の利用拡大	低質材のバイオマス燃料等への供給体制の整備 木質バイオマスの利用拡大 多様な木質資源の有効利用のための技術支援
東部 (吉野川)	間伐推進団地の拡大の取組	既設団地の再編と新規団地の開拓支援 森林施業プランとその人材育成
	地域材の需要拡大	地域材需要拡大のための将来計画（マスタープラン）の作成
南部 (美波)	南部フォレストバンク構想の推進	森林整備・サポートセンターの設立及び構成メンバーの能力向上研修会の開催 森林所有者への働きかけ及び現地森林調査等、間伐等の実演会の開催 情報の収集及び発信
	「県南の海を育てる森づくり活動」の推進	連絡会議の開催 未利用木質資源を活用した産卵礁等の開発 海山連携による森づくり活動の推進
	集約化による実行性のある団地づくりの支援	県所有情報の提供による団地化支援 森林所有者への提案型施業の推進指導
南部 (那賀)	搬出間伐推進のための技術者の育成	搬出間伐技術者の育成・確保及び技術向上 作業道開設技術者の育成及び技術向上
	新規参入者を対象とした人づくり	新規参入者への技術指導 新規参入者への労働安全指導
	西部 (美馬)	SGEC認証材を核とした地域材利用促進
SGEC認証取得の推進		
地域木製品のPR活動 広葉樹林利用拡大及び「美馬の薪」のブランド化		
西部 (三好)	団地形成と間伐材搬出による林業経営の改善	団地化・搬出間伐の推進
		現場作業員の技術の向上
		3点セットの稼働率の向上
西部 (三好)	団地化の推進	間伐推進団地へ新規施行地の追加及び新規団地の設定
		森林調査及び団地説明会等の運営管理指導
		集約化施業団地の設定
		森林調査及び団地説明会等の運営管理指導
西部 (三好)	流域間連携を核とした木材需要拡大の推進	徳島すぎ・香川ひのきを使用した木造住宅建設推進
	SGEC認証森林と認証材の利用拡大	認証森林の活用と認証材の需要拡大 森林・木材利用アドバイザーの育成と活用
	ホンシメジの生産振興	生産技術の向上支援 生産体制の構築支援



# 各種中央団体等の表彰

林業振興課 協働の森づくり担当  
課長補佐 濱田浩二

## 「第二十二回森林レクリエーション 地域美化活動コンクール」

○受賞者

NPPO 法人三嶺の自然を守る会  
(暮石代表・徳島市)

○種類

農林水産大臣賞 (県内初)

○主催

(社)全国森林レクリエーション協会

概要 自然とのふれあいの場所等において、積極的に美化活動を行っているボランティア団体を表彰し、森林に対する意識の向上と環境教育に寄与することを目的に表彰。県内で、過去三団体の受賞歴でしたが、三十二点の中から大臣賞に初めて選ばれました。



暮石代表(左)と三浦雄一郎会長

これで、同会は、昨年度の「四国山の日賞」「とくしま環境賞」に続いての三冠となりました。三嶺地域でのオーバーユースによる汚物運搬、継続的な保全活動、一般市民への美化やモラルの啓蒙活動、行政への提言等が特に評価されました。

## 「平成二十一年度緑化功劳者」

○受賞者

西浦輝昭 (那賀町)

○種類

国土緑化推進機構会長賞

○主催

(社)国土緑化推進機構

○概要

国土緑化運動に長年にわたって携わり、その貢献が顕著である者を表彰。

氏は、県の林業功労者としても過去に表彰された経歴があり、本県では平成に入って最も上位の賞に選ばれ、神奈川県で開催された第六十一回全国植樹祭において、天皇皇后両陛下の御前で表彰されました。

「蔭谷杉生会」「若杉林材加工組合」の設立、素材生産及び産直型住宅のシステム構築等の活発な活動、並びに木頭森林組合の経営安定及び後継者育成等により、地域林業の発展に

寄与されたことが評価されました。表彰を受けた氏は「木材



西浦 輝明氏

林業振興課 協働の森づくり担当  
課長補佐 濱田浩二

の値段は安いけれど、効率的な搬出により林業を行っていきたい。また、奥さんの農作業も手伝っている。収入では負ける。(笑)」とこれからも元気で頑張ってほしいと思います。

## 「平成二十二年さくら功労者」

○受賞者

NPPO 法人神山さくら会(谷代表)

○主催

(財)日本さくらの会

○概要

さくらの保護・育成やさくらを通じての教育・指導に功績のある者を表彰。

今年度は、「とくしま花づくり大賞」「中四国緑化功労者」等の受賞歴があり、平成九年より手作り苗の「神山枝垂れさくら」等の植樹を積極的に行い、「神山さくら街道」の完成に向け、次世代が誇れる活

力と夢のある町づくりに取り組んでいる点が評価されました。そして、三月に



谷理事長、林副理事長(左から)

は賞状の伝達が、県林業飛躍局山中局長から行われました。

## 「とくしまWeb大賞2009」

○受賞者

かみかつ里山倶楽部(代表笠松上勝町長)

○種類

一般部門大賞

○主催

徳島県、(財)とくしま推進財団

○概要

徳島県内の自治体、各種団体企業、学校、個人等が運営しているWebサイトやブログのうち、徳島らしさあふれる優れたウェブサイトを表彰。

県立高丸山千年

の森の指

定管理者

である同

会が運営

するサイ

ト名「高

丸山千年

の森」が

百団体の

応募の中

から選ば

れました。

高丸

山の自然

状況やイ

ベント情

報を紹

介すると

ともに、

ブログを

活用し

た森づく

りの状況

を逐次発

信し、見

やすく綺

麗な事が

評価され

ました。こ

れで昨年

の「四国



原田事務局長補佐(左)

おわりに  
今回、各賞を受賞された方々、大変おめでとうございます。今後も活発に活動を継続され、徳島県における森林・林業の牽引者としての御活躍を期待します。

# 森林林業研究所の業務概要について

森林林業研究所 次長 佐々木 浩

当研究所は、森林の多面的な機能の発揮と林業・木材産業の発展を期するため、試験研究部と技術支援部のほか、木材需要開発センターを置き、次の四つの主要業務を推進しています。

- ①森林・林業・木材利用に関する試験研究・技術開発業務
- ②林業・木材産業に関する技術指導、技術情報の提供などの普及業務
- ③林業者等に対する林業に関する知識・技術及び技能向上に関する研修業務
- ④木材需要開発センターの運営を通じた県産木材の需要開発の支援業務

平成二十二年度においては、試験研究部に森林生産環境、キノコ生産、木材利用の各担当に研究員を六名配置し、次の四つの重点分野で、十二

の試験研究課題に取り組みます。

平成二十二年度試験研究課題

①森林の保全と森林の多面的機能強化のための技術開発

二酸化炭素の森林吸収量算定等のための基礎データの収集と二ホンジカの生態管理等林業防除技術の試験研究を実施する。

○森林吸収源インベントリ情報整備事業（H18～22）

○徳島すぎを守り育む獣害対策

○徳島すぎの信賴性向上に関する強度特性の研究（H20～22）

○木製構造物の耐久性の検証と劣化診断法の開発（H20～22）

○徳島すぎ高度難燃化技術の実用化に関する研究（H22～24）

○特用林産物の生産技術の高度化

開発

スギポット大苗生産技術の開発、伐採跡地の適正管理のための調査、スギ人工林の再造林・保育等の省力

育林技術の検証、長伐期育林体系の確立等の試験研究を行う。

育林技術の検証、長伐期育林体系の確立等の試験研究を行う。

育林技術の検証、長伐期育林体系の確立等の試験研究を行う。

育林技術の検証、長伐期育林体系の確立等の試験研究を行う。

○育林の低コスト化を可能にする革

新的な徳島スギ大苗生産技術の開

発（H21～24）

○スギ省力施業技術の研究（H15～

24）

③県産木材の用途拡大と高度利用技

術の開発

徳島すぎの乾燥技術の確立、木造

住宅の部材・構法の研究、木材の加

工及び化工技術の開発を行う。

○木材乾燥時に発生する枝技跡の変

色抑制技術の開発（H21～22）

○徳島すぎに適した次世代乾燥技術

の確立（H20～22）

○徳島すぎの信賴性向上に関する強

度特性の研究（H20～22）

○木製構造物の耐久性の検証と劣化

診断法の開発（H20～22）

○徳島すぎ高度難燃化技術の実用化

に関する研究（H22～24）

④特用林産物の生産技術の高度化

日本一の生産量を誇る菌床シイタ

ケ栽培技術の改良とホンシメジの栽

培技術確立のための研究を実施する。

○（新）良質・省力なホンシメジの

栽培技術の実用化（H22～24）

○高機能・高品質シイタケ栽培技術

の開発（H20～22）

○キノコの光応答メカニズムの解明

及び高度利用技術の開発（H21～

25）

また、技術支援部には、高度専門

技術支援担当三名を配置し、林業技

術研修の開催のほか、次の三つの普

及重点課題に取り組みます。

①林業技術者の養成及び作業技術の

向上支援

②森林管理手法の近代化支援

③木材流通情報の提供と森林・木材

の有効利用の指導

木材需要開発センターの利用方法

や研究報告書、優良事例、各種マ

ニュアルについてのお問合せは、森

林林業研究所ホームページをご覧下

さい。

HP URL

<http://www.pref.tokushima.jp/ta>

[ftsc/shinrinken/](http://ftsc/shinrinken/)

徳島県立農林水産総合技術センター 森林林業研究所

# 平成二十二年度 林業専門技術研修について

森林林業研究所 高度専門技術支援担当 主任事 橋 本 光 宏

## 一 研修の有料化について

平成二十年度から、森林林業研究所で実施している労働安全衛生法に関する資格取得にかかる林業専門技術研修が有料化されています。

(表1参照)

研修手数料は、必要な額を県収入証紙で納めていただきます。

## 二 各研修の概要

### ① 林業架線作業主任者研修

架線の理論、関係法令等の室内講習と、架線の架設、集材機試運転等の実技講習で、研修修了者は、「架線作業主任者免許」を申請できます。

なお、この研修を受講するには、二年以上の実務経験が必要です。

### ② 林内作業車集材作業安全教育

林内作業車の理論と、運転及び集材作業の実技講習です。フォワーダを使用した新間伐システムの従事者には、是非受講していただきたい研修です。

### ③ 機械集材装置運転特別教育

機械集材装置の理論に関する室内

講習と、集材機の運転等の実技講習となっております。

### ④ 車両系建設機械（整地・運搬・積込用及び掘削用）運転技能講習

車両系建設機械（バックホウ・ブルドーザー・トラクタシヨベル等）の理論と実技講習です。機体重量が3t以上のバックホウ等を運転することができません。

### ⑤ フォークリフト運転技能講習

フォークリフトの理論例に関する室内講習と走行及び操作に関する実技講習となっております。この資格は、積み荷の最大荷重が1t以上のフォークリフトを運転する作業に必要です。

### ⑥ 玉掛け講習

クレーン等の理論に関する室内講習と、玉掛け作業に関する実技講習となっております。吊り上げ荷重が1t以上のクレーン等の玉掛け作業には必ず必要です。

### ⑦ 小型移動式クレーン運転技能講習

小型移動式クレーンの理論と実技

講習となっております。この資格は、吊り上げ荷重が1t以上5t未満の小型移動式クレーンを運転する作業に必要です。

### ⑧ はい作業主任者技能講習

はい、はい付け作業、はい崩し作業及び関係法例等に関する室内講習となっております。高さ2m以上のはい作業には原則として「はい作業主任者」を選任する必要があります。なお、この研修を受講するには、三年以上の実務経験が必要です。

### ⑨ 森林林業基本講習

昨年度から始まった研修で、新たに林業に就業するために必要な森林林業に関する基礎知識等を修得します。

### 三 受講の申込方法

林業技術研修の受講を希望される方は、

研修受講希望調書を提出してください。受講希望調書は、当研究所のほか、東部農林水産局及び各総合県民局にもあります。

表-1 林業技術研修一覧表 (一部実施済)

研 修 区 分	日 程	研修手数料
林業架線作業主任者研修	平成22年5月12日～14日・5月18日～21日・6月1日～4日・6月9日～6月11日	17,000円
林内作業車集材作業安全教育	平成22年6月25日	2,000円
機械集材装置運転特別教育	第1回：平成22年7月8日～9日	3,000円
	第2回：平成22年11月4日～5日	
車両系建設機械（整地・運搬・積込用及び掘削用）運転技能講習	平成22年9月2日～3日・9月7日～10日	13,000円
フォークリフト運転技能講習	平成22年9月27日～28日・10月5日～10月8日	8,000円
玉掛け技能講習	平成22年10月21日～22日・10月28日～29日	9,000円
小型移動式クレーン運転技能講習	平成22年11月17日～19日	5,000円
はい作業主任者技能講習	平成23年1月20日～21日	2,000円
森林林業基本講習	平成22年4月22日～23日	1,000円

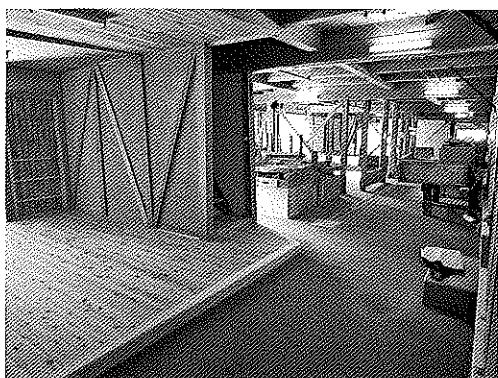
# 県産材の需要拡大に向けて！

## オール県産材の生活体験施設が各地に誕生

林業振興課 木材生産流通担当 課長補佐 小杉 純一郎

昨年度、県産材モデル住宅団地『ウッドプレスゆたか野』がオープンしたことは、林業とくしま292号でご紹介したとおりですが、併せて、県産材を利用した4棟の生活体験施設が誕生しました。

これは、『ウッドプレスゆたか野』同様、国土交通省の補助事業『地域住宅モデル普及推進事業』により建築されたもので、どれもオール県産材です。それぞれ特徴のある生活体験ができる宿泊施設となっています。



那賀町 井本紙漉場

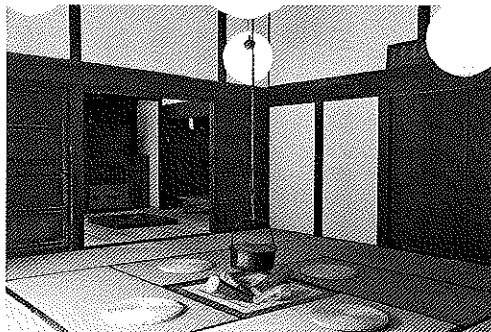
### 【那賀町 拜宮和紙 井本紙漉場】

昭和24年に建築された木造紙漉工場を改修し、紙漉体験・宿泊施設としてリフォームしました。耐震性に問題があったため、土台の新設や添え柱での補強など、県産材を利用した大規模改修を行っています。

### 【美馬市 木屋平 春宵庵】

江戸時代の古民家（庄屋屋敷）を修復した母屋と、徳島すぎをふんだんに使用した増築部からできており、蕎麦打ち体験ができる宿泊施設で

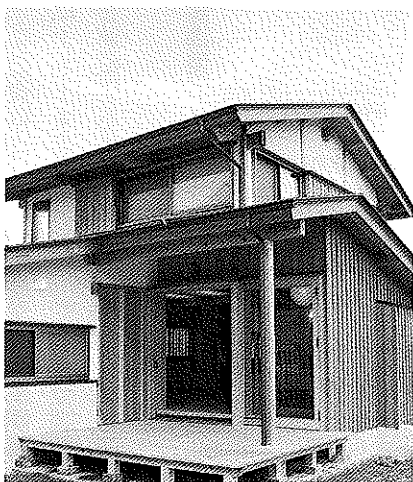
す。増築部は、徳島すぎの特徴を現すよう、柱や小屋組を見せて作られています。



美馬市 春宵庵

### 【徳島市 生活体験施設 杵居】

3間×3間（18畳）の一室空間を基本単位「骨組み」とし、台所や浴室などの「部品」を「骨組み」に取り付けていく「サンゲンカク」の考

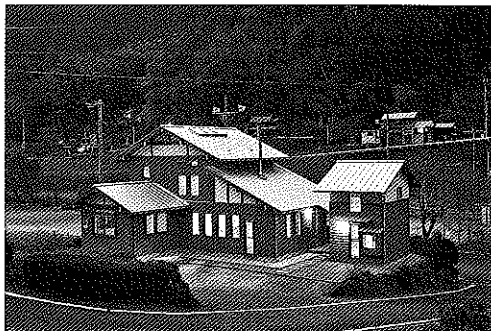


徳島市 杵居

え方により、伝統工法で作られ、木工体験もできる宿泊施設です。

### 【上勝町 生活体験施設 くるくるハウス】

上勝町が独自に研究・開発した「KKPANEL（上勝パネル）」を用いた田舎暮らし生活体験施設です。構造部品をできるだけ工場生産し、現場工数を減らしてコストダウンと高品質化を図っています。内部に大きな空間を構成することも可能です。



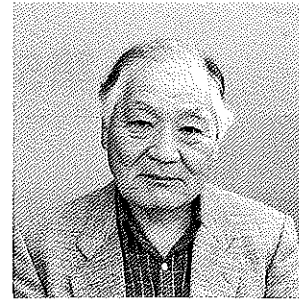
上勝町 くるくるハウス



# 徳島県林業改良普及協会だより

## 第39回通常総会の開催

平成22年度第39回通常総会を5月18日に開催しました。来賓として出席していただいた県林業振興課の森副課長から、間伐の重要性・必要性等についての激励の挨拶がありました。



新会長：藤田真寛氏

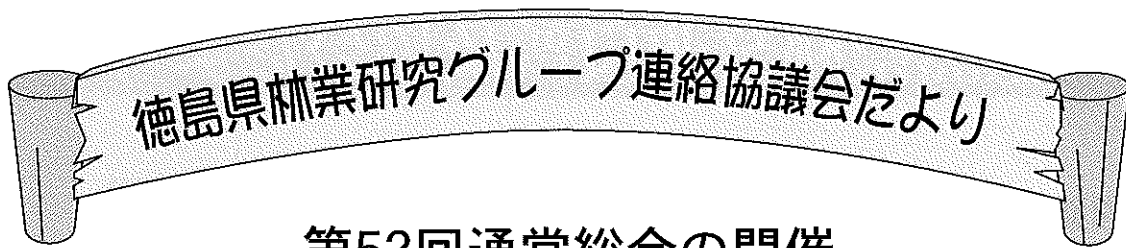
会は、21年度の事業報告・決算報告及び22年度の事業計画・収支予算が提案され、原案どおり承認されました。新規事業として、新たに林業経営を始める人や施業意欲の低下した森林所有者を対象とした「林業経営新規参入者支援事業」を実施し、森林施業等の技術・知識の研修会等を開催します。(林野庁助成事業)

また、公益法人制度改革に関する法律の施行となって、私たちの社団法人は、平成25年11月30日までに「一般社団法人」または「公益社団法人」の何れかに移行するか、若しくは「解散」することを求められております。総会において議論の結果、当協会は一般社団法人へ移行することとなりました。こののち、「定款の変更の案」の作成など諸手続を進めていきます。

さらに今総会では、任期満了に伴う役員の改選があり、新たな役員が選出されました。新役員は表のとおりです。

(専務理事 杉浦 猛)

役職名	氏名	住所
会長	藤田 真寛	那賀町
副会長	谷 藤 陽	三好市
〃	和 田 善 行	徳島市
理事	白 河 強	美波町
〃	住 友 進	神山町
〃	関 康 昭	上勝町
〃	橋 本 光 治	那賀町
〃	佐々木 隆 雄	〃
〃	三 浦 茂 貴	海陽町
〃	坂 本 登	美波町
〃	和 泉 隆 啓	吉野川市
〃	梅 津 芳 夫	美馬市
〃	天 田 善 信	〃
〃	齋 藤 吉 明	つるぎ町
〃	杉 山 宰	三好市
〃	高 井 勉	〃
〃	大 柿 兼 司	〃
〃	佐 藤 尚 史	上板町
〃	西 又 文 喜	藍住町
〃	船 田 征 二 郎	徳島市
専務理事	杉 浦 猛	阿南市
監 事	西 利 一	上勝町
〃	奥 野 喜 吉	那賀町
〃	西 正 人	美馬市



## 第52回通常総会の開催

平成22年度第52回通常総会を5月20日に開催しました。県から林業振興課の白河課長に出席いただき、激励のご挨拶がありました。会は、21年度の事業報告・決算報告及び22年度の事業計画・収支予算が提案され、原案どおり承認されました。

事業としては、21年度に実施しました「林業後継者育成・確保支援事業」に引き続き、今年度は「児童・生徒の林業就業促進支援事業」と名称替えして実施することになりました。事業の仕組みと進め方は前年度とほぼ同様で、地元の小・中学生を対象に森林・林業のすばらしさを実感できる体験学習等を実施するものです。(林野庁助成事業)

また今総会は、任期満了に伴う役員の改選があり、新たな役員が選出されました。新役員は表のとおりです。

(常任理事 杉浦 猛)

役職名	氏名	所属グループ名
会長	大 柿 兼 司	西井川林業クラブ
副会長	齋 藤 吉 明	一字村林業研究クラブ
”	篠 崎 佐千代	上勝広葉樹苗木生産組合
”	下 尻 浩 幸	もっこり倶楽部
”	久 保 進	馬路「夢いっぱい」会
理事	増 原 久 志	阿波池田山水会
”	尾茂谷 豊 治	まる共林業クラブ
”	安 達 英 雄	穴吹木生会
”	谷 雅 文	やまびこ森林研究会
”	片 山 功	かみやま林業振興会
”	西 利 一	上勝林友会
”	府 殿 長 治	阿南地区林業指導者会
”	亀 井 廣 吉	木沢林業研究会
”	上 原 豊 七	美波町青年林業者会議
常任理事	杉 浦 猛	徳島県林業改良普及協会専務理事
監事	川 原 稔	東みよし町三加茂選木士会
”	大 田 浩 二	丹生谷地域林業研究会
”	本 生 啓 二	かみやま林業振興会

## 超低コストの造林技術を開発しませんか

東部農林水産局（徳島）

林業飛躍プロジェクト担当課長 高橋 幸次



森林・林業に関わって三十年余りになりますが、この間の木材価格の下落ぶりには目を覆いたくなるものがあります。とはいっても、価格は需要と供給のバランスで決まるものですから、嘆いたところでどうなるものでもありません。

当てにならない木材価格よりも、ここは一つ、伐採後の更新から育林について「超低コストの造林技術」を開発し、収入が少ないなら支出を減らすことを考えてみたいものです。伐採・搬出については、択伐であれば「林業飛躍プロジェクト」でたっぷり補助金が出るので問題無し。では更新はどうするか。択伐なら上層木があるので、種が落ちて幼木が生えてくるのを待つ。ただし、何もしないとスギ・ヒノキはあまり生えてこないで、地表面のかきおこしは必要でしょう。それでも生え方が少なければ、補助的に植栽すれば良いわけです。

さて、無事に生えそろうたとして、下刈りはどうするか。択伐の樹下なら樹木と草本類の光に対する感受性の差や、上層木が出すフイトンチツドに対する耐性の差を利用することにより、草本類は生育しにくいのが、

樹木は生育できる環境が整います。それによって、下刈りや蔓切りは少なくて済みます。しかも樹下での作業ですから、涼しくて楽にできます。それ以後は、適当な時期に除間伐を一回行えば、あとは「林業飛躍プロジェクト」のサイクルに入っていきます。

ここまでの経費を積算すると、択伐一回につき一ヘクタールあたりの人工数は、かきおこし三人工、下刈り・蔓切り三人工、除間伐三人工、日当一万五千円として十三万五千円。これを最終の伐採までに三回繰り返せば四十万五千円となります。従来の方法なら二百万円とされているので、これに比べると「超低コスト」ということになりました。こういうことを最適化するのが「林業技術」というものです。

なお、ここではシカの被害対策には触れませんが、天然更新で苗が成立する場合は、本数が極めて多いことと、苗が堅くて食べにくいことが考えられるので、少々喰われても適当な本数が残るのではないかと楽観視しています。

まあ、あくまで「仮説」ですので、普及するには今後の実証が必要です。